

実践事例

『わたしたちの体育』を活用した実践事例

～5年生「意識してやってみよう！ 跳んで回ってピタッと止まる！」の学習を通して～

伯耆町立二部小学校 本池 典史

1 はじめに

とび箱運動は、踏み切りから着地までを一連の運動として、跳び箱の高さや踏み切り板の距離を変えながらいろいろな技に挑み、できなかった技ができるようになる楽しさや喜びを味わうことの出来る運動である。高学年では基本的な支持跳び越し技の発展技を行う。児童にとってはより複雑で大きな動作が必要となってくるため、客観的・視覚的に動きの理解を深め、練習計画や振り返りでの主体的な活動ができるよう実践ではメディア機器と『わたしたちの体育』を活用した。



単元1時間目の様子

2 指導の実際

高学年のB器械運動ウの目標である、跳び箱運動での基本的な支持跳び越し技を安定して行った後の発展技については、『わたしたちの体育』の活動②を参考に挑戦させた。

単元の展開

単 元 時 間 の 流 れ →			
時間	1	2・3	4～6
単 位 時 間 の 流 れ ↓ 学 習 内 容	挨拶・準備運動・めあて確認		
	・学習のねらいと進め方を知り、見通しを持つ。 ・きまり、学習の場、安全面について確認する。 ・「やってみよう」をする。 ・学習のまとめ方を確認する。	・「やってみよう」をする。 ・活動①の跳び箱運動をする。 ・技の完成度を高める。 ・できるようになった技を友だちと交流する。	《基本的支持跳び越し技》 ・活動②の跳び箱運動をする。 ・できるようになった技を友だちと交流する。 ・単元のまとめをする。
	《発展技》 整理体操・挨拶		

跳び箱の技や動きは一瞬であるため、模範演技を直接見るだけでは動きをとらえづらい児童もいる。そこでメディア機器を利用して児童自身の振り返りを促し、運動への理解を深めさせた。

児童の自己評価は、体育の3観点で振り返るようにするため『わたしたちの体育』の学習のあしあとを活用させた。また、自己を振り返るだけでなく授業の活動によって、自分や仲間の動きにも注意して観察させ、動きのよさや美しさについて話し合う時間を設けた。

3 終わりに

メディア機器を利用することでスローモーションや静止画像でじっくり見せることができ、自分や友だちの技のどの瞬間を見ればよいかをその場で確認、指示することで理解を深めさせることにつながった。

児童たちにとって『わたしたちの体育』は連続した運動の図解があり、動きのポイントを視覚的に理解しやすく、具体的な練習方法に数多く取り組むことができた。また、動きのコツをオノマトペだけでなく、記載されている言葉をキーワードにしなが児童たちは互いに交流した。具体的なスモールステップを踏んだ練習を重ね、友だちができるようになったその姿を見ると「〇〇すればできる」と声を掛け合いながら意欲的に運動を続けていた。今後も、活動を工夫して各種の運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、その特性に応じた基本的な技能を身に付け、体力を高めていきたい。



メディア機器で振り返る



児童の振り返りより